

世界遺産登録 再チャレンジ

平泉の文化遺産は、平成23年の世界遺産登録を目指しています。このコーナーでは、登録に向けた取り組み状況についてお知らせします。

第19回 世界遺産委員会の最新動向を調査

第34回世界遺産委員会が7月25日から8月3日にかけてブラジルの首都ブラジリア市で開催されます。会議に派遣される日本政府代表団の一員として、町から世界遺産推進室の斎藤室長が県教育委員会生涯学習文化課の職員とともに参加する予定です。

来年パーレーンで開催される世界遺産委員会で「平泉」登録の可否が審議されることから、委員会の最新動向を調査し今後の取り組みに反映させることが大きな目的です。

また会場で英字パンフレットを配布するなど、可能な限り「平泉」のPR活動を展開します。

今回の世界遺産委員会で日本から推薦する資産はありませんが、石見銀山遺跡の範囲拡張が審議されます。日本の世界遺産登録範囲の拡張は初めての試みとなります。なお今年の委員会で審議が予定されている新規推薦物件のうち、イコモスが登録を勧告した資産は全体の約2割しかありませんでした。

勧告内容には、資産の保存管理に対する指摘が多くみられており、審査は厳しさを増しているようです。

イコモスの現地調査では、無量光院跡の池跡に水張りを行うほか、中尊寺大池跡などで現在進められてい

る発掘調査の状況も説明する予定です。

資産の現状や保存管理の取り組みなどについて、踏み込んだ質問があるものと想定されることから、平成19年に行われた現地調査の実績も踏まえて、適切な説明のためのQ & A（問答集）も準備中です。



第34回世界遺産委員会の会場となる「ロイヤル チューリップ ブラジリア アルボラダ」は、ブラジリアのパラノア湖畔、大統領府に近い高級ホテルです

平泉を掘る

平泉の市街地から西に約6^{km}の地点に国指定史跡「達谷窟」があります。坂上田村麻呂創建と伝える窟毘沙門堂の別当達谷西光寺の境内地を中心として遺跡が広がり、これを西光寺跡と呼んでいます。過去の調査では境内の池跡から奥州藤原氏時代の石積み護岸や土器（かわらけ）が多く出土しています。

今年の4月から5月中旬に行った7次調査では、奥州藤原氏以降の中世の遺物が出土しました。

主な遺物は中国産青磁、かわらけ、瀬戸産陶器、銭貨などがあります。中国産青磁は龍泉窯の比較的小型な製品の蓋で、13世紀後半から14世紀初頭とみられるものです。かわらけは手づくねとロクロ作りがあり、形や整形技法が12世紀のものとは異なっています。

銭貨は1基の土坑底面に数枚ずつ重なっていました。中国の北宋銭に混じって永樂通寶や洪武通寶が出土し、中世後半から江戸時代初めの遺構と思われる。

発掘最前線⑧

西光寺跡7次調査・出土した中世の遺物

この他の遺構は江戸時代やその後の比較的新しい年代の建物跡とみられる柱穴や土坑で、12世紀や中世の遺構は確認されませんでした。



今回の調査で出土した中国産青磁

今年水かけ神輿15周年を記念して 深川富岡八幡宮神輿もいっしょに渡御します

神輿宵宮・ひらいずみ夜祭り

【会場／旧観自在王院庭園内】

□ 7月17日（土）

- ・ 15:30 幼児みこし
- ・ 16:00 よさこいソーラン
- ・ 17:00 神事
- ・ 18:00 ふるさと踊り
- ・ 19:00 宵宮・山王太鼓
- ・ 19:45 玄米ニギニギ体操
- ・ 20:30 閉会

地域宵宮 18:50～19:00

今年は、毛越寺駐車場から平泉神輿が、平泉中学校から富岡八幡宮神輿が旧観自在王院庭園に向けて渡御します。

平泉商工会夜市

【会場／旧観自在王院庭園内】

□ 7月17日（土） 14:00～20:30

神輿担ぎを練習します

日時…7月9日（金）18:00～

場所…町営毛越寺駐車場（雨天時は平泉中学校柔剣道場）

水かけ神輿渡御

世界遺産登録祈念

神輿渡御タイムスケジュール

【旧観自在王院庭園～毛越寺～平泉駅～中尊寺～旧観自在王院庭園】

□ 7月18日（日）

- ・ 8:00 神輿渡御安全祈願
- ・ 9:00 神輿渡御（小学生神輿・中学生神輿・親神輿・富岡神輿）
- ・ 9:10 毛越寺境内
- ・ 9:45 国道4号交差点
- ・ 10:10～10:20 小休止（平泉駅前）
- ・ 11:00 中尊寺踏切
- ・ 11:15～11:25 小休止（西行苑前）
- ・ 12:00 金色堂前到着・参拝
- ・ 12:30～13:15 大休止・昼食（中尊寺第一駐車場）
- ・ 13:30 平泉文化遺産センター出発
- ・ 14:00 旧観自在王院庭園到着・宮入

◎問い合わせ先…平泉神輿会

（建設水道課内 荻山）☎46-5569

「ふるさと平泉会」と「岩手県人の集い」同日開催

去る6月6日午後1時から関東地方在住の平泉町出身者で組織する第18回「ふるさと平泉会」の総会・懇親会を浅草ビューホテルで開催。同日の午前11時から東京・日暮里のホテルラングウッドで「第36回岩手県人の集い」が開催されました。公務多忙の高橋一男町長は、双方からの招待を受け、まずは午前中の県人会に出席され、総会終了後の懇親会の冒頭、出席者400人を代表して、昨年と同様に乾杯の音頭を取りました。次いで行われた岳神楽（早池峰神楽）昨年9月、世界無形文化遺産に登録（登録）を見て高橋町長とふるさと平泉会の3役員はふるさと平泉会の会場である浅草に向かいました。



岩手県人の集いで乾杯の音頭を取る高橋平泉町長



ふるさと平泉会総会で紙芝居を披露する県職員

「ふるさと平泉会」と「岩手県人の集い」同日開催

着席、午後1時、定刻に至り総会を開会。西村専次会長があいさつ、高橋町長と青木町議会議長が来賓祝辞を述べました。総会はずべて承認されて終え、懇親会に移る幕間に「みんななかよし ひらいずみ」と題する紙芝居を岩手県世界遺産推進課の職員らが見事に演じました。その内容は、県職員（文「女鹿智恵さん、絵」松崎雄「さん」が作った作品で、平泉に生まれた清衡が金色堂を建立した背景（戦争反対）と意図（平和希求）を子どもからお年寄りまでだれにでも分かるように「浄土思想」を物語風に構成した作品で、会場から大きな拍手が送られました。休憩の後、藤里明久毛越寺執事長が乾杯のあいさつと音頭を取り、懇親会が開幕しました。会場は1年ぶりの再会を喜び飲食や談笑、歌謡やビンゴゲームなどで楽しいひとときを過ごし懇親を深めました。最後に千葉庄悦平泉商工会会長のなかめで、平泉の世界文化遺産登録を確信し、来年の懇親会で喜びを分かち合うことを誓って散会しました。（文）ふるさと平泉会副会長・鈴木喜佐人、写真）同幹事・千葉壮二郎